

戀は強し

帝キネ小阪映畫

原作者 木村ふじ男氏
脚色者 田中健三氏
監督者 森本登良男氏
撮影者 谷口禎氏



主要役割

庄屋五兵衛 阪東 豊昇氏
娘 お露 松枝 鮎子嬢
柳瀬八郎 中村 太郎氏
若者 藤助 中村 章三郎氏
松永重直 尾上 紋十郎氏

解説 森本登良男氏が「清水次郎長」(終篇)に次いで監督製作した映畫である。一國の城主柳瀬八郎は武運拙くも打滅ばされ今は南海の沿岸に於て馬子に身をやつし密かに敵の情勢を探り再舉の機を狙つて居た。その村の庄屋五兵衛は愛娘お露と平和な日を送つて居たが、奇しき運命の手は八郎とお露を戀の絆に結んだ。再舉の機を得た八郎は、やがて一味殘黨を率ひ彼の古城に反旗を翻した。お露は寂寥と不安との中に日を送つて居たが豫ねて彼女を慕つて居た村の若者藤助は八郎とお露との仲を知り、逆者の名を婿に五兵衛へお露を妻にと懇望した。家の爲父身の爲に五兵衛は厭にそれをすゝめたが、お露は強烈な戀の焰に弱い女の心にも力を得て戦場なる八郎を追ふた。戦ひ利あらず憐れ空しき再舉に斃れた八郎の屍から形見の守札を取り出して、お露は飄蕩たる戦野を彷徨ひながらそれを狂ひ抱くのであつた。